



夕陽

函館市支部会報

発行所
夕陽会 函館市支部
函館市立五稜郭中学校
印刷/株島本印刷

～ 寮歌で深まる夕陽の絆 ～



社会の変化と学校教育

夕陽会函館市支部 副支部長 宇佐美 雅 司
(昭和五十八年卒)

「二〇三〇年問題」という言葉がある。文部科学省の教育課程企画特別部会が平成二十七年八月に発表した論点整理(案)：(以下論点整理)にも、更には中央教育審議会が昨年十二月に発表した「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」の答申：(以下答申)においても「二〇三〇年の社会と子供たちの未来」という文言が表題として登場してくる。これまで今後の社会情勢を述べる際には、「急激な社会の変化」などといった抽象的な文言がまるで枕詞のように使われていた。ところが今回は二〇三〇年という具体的な数字の登場である。論点整理には、但し書きとして「二〇三〇年には、六十五歳以上の国民が占める人口の比率が三分の一に達し、生産年齢人口は約五十八%に減少する。」とある。また別の統計資料では、日本の総人口自体も一億一千万人まで減少し経済成長率も下降の一途を辿る。加えて科学技術の進歩により就業職種が世界的に半減することも予想されている。一方年金支給年齢も徐々に後退し、就業年齢の高齢化を余儀なくされる。職を得るためには老人とか若者といった世代の区別がなくなる社会が到来すると述べている資料もある。考えたくないがこれは遠い未来の話ではなく僅か十三年後に訪れる社会の姿である。

答申にある「何ができるようにするか」、「何を学ぶか」、「どのように学ぶか」、「子供

の発達をどう支援するか」、「実施するために何が必要か(地域・家庭との連携の元)」という学習指導要領改訂イメージの項立ては、そのまま十三年後の社会状況を好転させるための人材育成プランとなるだろう。目指すべき「何ができるようにするか」ということの具体的な内容については、答申内に三項目にわたって示されている。原稿の都合上私なりに解釈すればおおよそ次のようになるのではないかと考える。

- ・ 広い視野と深い知識に基づき主体的に自らの将来を選択し自己実現ができる
- ・ 対話や議論に基づいた相互理解と協力協働ができる
- ・ たゆまぬ課題追求によるよりよい生活の創造や社会貢献ができる

この三つの「できる」を具現化させるためには(どのように学ぶかという指導方法の不断の見直しと改善「主体的・対話的で深い学びの実現」は必要不可欠となる。教師がアクティブラーニングの視点から授業改善に挑み、実践していくことは、ただ単に指導に際して有効だとか子供にとつて効果的だといった性質のものではない。「二〇三〇」という数字は、そのことについて現場の教師に再認識と危機感を促す警鐘であると思えてならない。

現場の教師として責任の重大さを感じるとともに、改めて地域社会で活躍されている皆様のご理解とお力添えをお願いいたします。



先生になりたい

夕陽会函館市支部 顧問 三島 千春 (昭和五十四年卒)

「ハローハロー、笑顔で会いましょう」通勤のカーラジオから、「恋ダンス」ですっかり有名になった星野源の軽快な歌とナレーションが流れてくる。ライブは、一九六四年。ACジャパンの広告である。一九六四年は日本で初めてのオリピックが開催された年。

その時の自分は、小学二年生。極度のあがり症だった。音楽の歌のテストでは、教科書を持つ手は震え心臓が破裂しそうになりワンフレーズも歌えなかった。「気が弱く、活気に乏しい」と書かれた通知表の所見で、私のあがり症は悪化の一途をたどり、学芸会恐怖症へと続く。そんな「小心者」の三島少年が、教員になろうとは、我ながら夢にも思わなかった。

それから十年、一九七四年。転機が訪れたのが高校三年生。ちまたではフォークソング全盛期。猫も杓子もギターを手に入れ歌っていた「僕らの時代」。自分もブームに乗り、同好会で青春を謳歌した文化祭では、多くの観客を前にして歌うことの楽しさを覚えた。大学受験を控え、教員を目指そうと決意を固くしたが、その時の夏であった。

今年度は、母校である教育大学函館校の地域教育専攻の学生六名が、教育実習にやってきた。数年前、北海道教育大学の改革により、函館校から教員養成課程がなくなるのではとの危機的状況の中、橋田前会長のリーダーシップのもと、夕陽会や地域の強い後押しがあり設置された地域教育専攻初の教育実習生である。子どもたちと触れ合うことの楽しさ、先生と呼ばれることのうれしさ、授業づくりの難しさ、様々なことを感じ取ることができた四週間であつただらう。あらためて教師になりたい、そんな思いを強くした学生たちは、実習が終わった今も本校(八幡小学校)に学びに来ている。

最終日を迎えた先日、学生たちが校長室を訪れてくれた。「採用試験合格できるところまであります。頑張ります。これまでありがとうございました。さうございませう」と丁寧にお礼の言葉を述べていた。退職を前にした私と交わした握手。いつのまにか同窓生へ熱いエールを送っていた自分がいた。そして、道教委から学校力向上の指定を受け育ってきた同窓の初任者二人が四年間の勤務をまもなく終える。いつか夕陽会大懇親会で出会うことを楽しみにしている。



本校若手教員と実習生との和やかなミニ研修会

受賞者ご芳名一覧(敬称略・順不同)

- 瑞宝双光章 新榮正己 (昭和23年卒)
- 瑞宝双光章 新家健明 (昭和24年卒)
- 瑞宝双光章 永倉好明 (昭和26年卒)
- 瑞宝双光章 安島進 (昭和24年卒)
- 北海道教育功績者表彰 岡野伸二 (昭和54年卒)

函館市立学校教職員表彰

- 菊池守晃 (昭和53年卒) 茶碗谷 稔 (昭和54年卒)
- 切明学 (昭和53年卒) 土谷 敬 (昭和54年卒)
- 黒田仁志 (昭和54年卒) 平馬隆司 (昭和53年卒)
- 高橋登 (昭和53年卒) 八木 裕 (昭和53年卒)
- 高橋政弘 (昭和53年卒) 柳田智子 (昭和53年卒)

受賞おめでとうございます

よるいびの言葉

北海道教育功績者表彰
を受賞して岡野伸二
(昭和五十四年卒)

この度、平成二十八年度北海道教育功績者表彰の栄に浴することとなり昨年、柴田北海道教育長様より表彰を賜りました。私のような浅学非才の者にとりまして身に余る光栄であります。これもひとえに、渡島教育局、函館市教育委員会をはじめ多くの先輩や同僚、とりわけ夕陽会の皆様のお陰と心から感謝申し上げます。

また、受賞に際しまして、藤川会長様はじめ、同窓の諸先輩や後輩の皆様方より心温まるお祝いの言葉をいただき、改めて夕陽同窓会の深い絆を感じ、万感胸に迫る思いでありました。

振り返りますと、日高管内新冠町若園小学校で教職をスタートさせ、複式教育のイロハを夕陽の先輩に学び、不安だらけの新卒時代を乗り切ることができました。函館の中学校勤務の際には、師弟同行しながら生徒指導に懸命に取り組む諸先輩に囲まれ、悪戦苦闘しながらも教師であることの充実感を噛みしめることができました。次いで、道教委理科教育センター勤務では、校種の壁を越えての理科教育の教材開発、全道との先生方と授業研究に没頭する機会を得ました。その後、教頭職のスタートを奥尻町の小学校で経験し、若い先生との授業づくり、校長の意を体するとは何かを先輩の教頭先生から学ぶことができました。その後函館市内の中学校教頭、市教委として校長職と歩み職務を全うすることができました。

三十八年間の全ての時間の所要所で、必ず夕陽会の皆様との出会いがあり、有形無形のご指導、ご支援をいただき、私自身を成長させてくれました。改めて感謝申し上げます。今後とも、皆様のご厚情に応えるべく、与えられた環境の中で、夕陽魂を忘れず、精一杯努めていく覚悟です。結びになりましたが、夕陽会の皆様のご発展とご多幸を祈念し感謝とお礼のご挨拶と致します。



皆様に感謝して

菊池守晃
(昭和五十三年卒)

この度、函館市立学校教職員表彰受賞の栄誉を得ましたことは、多くの皆様方のお力添えやご厚情によるものであり、心よりお礼と感謝を申し上げます。

昭和五十三年四月、複式、小中併置校である福島町立千軒小学校で教員としての第一歩を踏み出しました。渡島で二十七年、函館市で十一年、合わせて三十八年の教職生活でしたが、振り返ってみれば、子供たちの笑顔に励まされ、諸先輩には授業の厳しさや学校経営の醍醐味を教えられ、保護者や地域の皆様には、公私ともに支えられながら充実した日々を過ごさせていただきました。

渡島時代は、諸先輩から、子供と真正面からぶつかり自分の力を高めるようにと、何度も励まされました。

また、久根別小学校在任中、附属函館小学校において一年間の長期研修を受けたことも、私にとって、貴重な経験となりました。授業づくりはもちろん、同窓の絆と人と人とのつながりの大切さを学ばせていただきました。その後、平成十七年、縁あって、函館市立弥生小学校に赴任しました。この転勤で、函館市支部の一員になり、私にとつては、新たな教職生活のスタートとなりました。渡島とはシステムが全く違い、戸惑いながらも、業務の遂行にあたる毎日でしたが、校長先生をはじめ、支部の皆様から、様々な場面で温かい励ましの言葉やご助言をいただきました。この度の受賞も、これまでの皆様のお力添えのお陰と、感謝いたしております。

最後に、夕陽会同窓生として、お世話になった函館市の教育の充実・発展のために、函館で学ぶ子供たちのために、微力ではありますが力を尽くして参りたいと思います。併せて、夕陽会の益々の発展と会員の皆様のご健康とご活躍をご祈念申し上げます、お礼の言葉といたします。



貢献と感謝

切明学
(昭和五十三年卒)

この度、函館市立学校教職員表彰受賞の栄誉を賜り、身に余る光栄と感謝申し上げます。

これもひとえに、様々な場面で支えていただいた諸先輩や同僚、後輩はもとより保護者や子どもたち、地域の方々、教育関係者等の皆様方のお力添えによるものであり、心よりお礼と感謝を申し上げます。今まさに、数え切れない「一期一会」に生かされ続けてきた三十八年間であったという思いを噛み締めています。

昭和五十三年三月に母校を卒業し、さほど自覚のないままに（お恥ずかしい限りです）夕陽会員としての第一歩を踏み出しました。以来、長万部町立双葉小学校を皮切りに渡島支部で八年間（小学校二校）育てていただきました。教員生活をスタートした直後の歓迎会は今も脳裏をよぎり、それは夕陽の「絆の強さ」と「頼もしさ」を直感した瞬間でもありました。

その後、函館支部にお世話になって三十年（中学校八校・小学校一校）鍛えていただき、何とか職責を全うすることができました。中でも、校種を越えた皆様に支えられ、相談指導（ふれあい）学級の開設に携わることができた四年間は、私の人生にとってかけがえのない貴重な経験として心に深く刻み込まれています。

締めくくりとなる凌雲中学校で、子どもたちには「貢献と感謝」について語り続けました。夕陽会を通して学び得た私の思いであり、これからの指針でもあります。

桔梗福祉交流センターに勤務する現在、改めて夕陽の仲間であることに感謝し、私の微々たる力が、少しでも誰かの役に立てるよう決意を新たにしています。

最後になりましたが、夕陽会のみならずのご発展ならびに会員の皆様方のご健康とご活躍を心よりご祈念申し上げます、お礼の言葉といたします。



夕陽に感謝して

黒田 仁志

(昭和五十四年卒)

この度、函館市立学校教職員表彰受賞の榮譽を賜り、身に余る光栄と感謝申し上げます。これもひとえに様々な出会いの場面で支えていただいた諸先輩や同僚、後輩はもとより保護者や教え子たち、地域の方々、教育関係者等々、多くの皆様方のおかげと受けとめ、心よりお礼と感謝申し上げます。

昭和五十四年三月母校を卒業し、縁あって四月に附属養護学校に勤務しました。初任校との出会いと同時に夕陽会にお世話になることになりました。この六年間が本当に凝縮したものだったように思い出されます。その後函館、尻岸内、七飯、松前、北斗、函館で会員の皆様と交流できたことも私の貴重な体験でした。結びつきの強さを実感し、家族のような温かさを体感しました。その間に、シンガポール、マレーシアと在外教育施設派遣ということも経験しました。その間も、夕陽の方々諸先輩、後輩等々、普段あまり話したことのない方からも親しく話をかけてご指導いただき、心強く、ありがたい気持ちでいっぱいでした。また、赴任や帰国の際も、常に心配をいただきました。本当にすべての事が「みなさんのおかげ」と感ぜずにはいられませんでした。

無事退職して、早いもので一年が経とうとしています。今、改めて、国内外を問わず、グローバルな視点で夕陽会の皆様には事あるごとに格別のご指導をいただきましたことに、心より感謝申し上げます。

今後、函館市の教育振興に貢献できるよう、また、若い会員の皆様为国を超えて活躍できるような激励に、微力ながら努力してまいります。

最後になりますが、夕陽会のみならずのご発展と会員の皆様方のご健勝とご活躍を心よりご祈念申し上げます。お礼の言葉といたします。



出会いと絆を宝に

高橋 登

(昭和五十三年卒)

この度、函館市立学校教職員表彰受賞の榮譽を賜り、身に余る光栄と感謝申し上げます。これもひとえに様々な場面で支え指導して頂いた諸先輩や同僚・後輩はもとより、保護者や子どもたち、地域の方々や教育関係者等多くの皆様のおかげと、心よりお礼申し上げます。

私の教師としてのスタートは、昭和五十三年四月、胆振管内の有珠小学校優健分校でした。当時を振り返ると、右も左も分からない新米教師の自分に、ガリ版の使い方をはじめ学級経営のイロハはもちろん、子どもへの指導のポイント・話し方など、細部にわたり声をかけ教えて下さったのも夕陽の先輩たちでした。そんな先輩たちに何の恩返しもしできないままに、二十代後半に、函館方面に戻るか胆振の地で勤務を続けるかと迷った折にも、ぐつと背中を押して下さいましたのも夕陽の先輩でした。

希望叶って着任した函館市内の中学校は、当時の非行や校内暴力が統発する荒れる中学校でした。けれども、大変さはありましたが、この学校の経験が、自分の教職の礎となりました。昼夜を問わず子どもと真正面から向き合い、ひとり一人の子どもを大切に愛情と、厳しさで温かさに満ちた先輩教師の指導から、感銘と共に「教師とは何か、何を為すべきか」を教えられました。これが、後の自分の歩み方や、管理職となり学校経営を推進する際にも、揺るがぬ強い信念となりました。

教職三十八年間は本当に幸せな時間でした。さらに、すばらしい出会いと絆を人生の宝とすることもできました。これからは、これまで支えて下さった方々に少しでも恩返しができるように、子どもたちに関わる仕事を続けていければと思っています。

結びに、夕陽会の益々のご発展と会員の皆様のご健勝とご活躍をご祈念申し上げます。お礼の言葉といたします。



夕陽に学ぶ

土谷 敬

(昭和五十四年卒)

このたび、函館市立学校教職員表彰受賞の榮に浴し、多くの皆様の支えによるものと心よりお礼と感謝を申し上げます。

他の受賞者の皆様比べ教員一年、管理職五年と函館市への貢献度の極めて少ない私がこのような名譽ある賞をいただくことに唯々恐縮しております。推薦の勞を担われた最終勤務校の教頭先生には、誠に申し訳なく思っております。

行政区分の異なる市内の学校に長い間お世話になりつつ函館の子どもの教育に携わったことも含めての受賞と自分自身にそう納得させているところです。しかも受賞の喜びとして夕陽会函館市支部会報に取り上げていただく機会を得、改めて本部の藤川会長様をはじめ函館市支部の風間支部長様に感謝申し上げます。

さて、教職に就いてから程なくして、当時組織部の業務を担っていた北昭和小学校に異動となり、その後附属函館中と、夕陽会を牽引しておられる大先輩のもとで勤務する期間が長く続きました。教員としての姿勢、行政職としての振る舞い、そして同窓会業務への向き合い方等、実に多くのことを学ばせていただきました。縁あって再び附属函館中に勤務する機会を得、在任期間中八年間、どんなに遠くても、天候が悪くても、会員の皆様が続いて下さるという思いで渡島の各支会、全道・全国の支部にお邪魔させていただきました。安島元会長様がJRで二日かけて宗谷支部までおいでくださったお姿に学びながら。

退職後は、函館市の児童館に勤務させていただいておりますが、教員として十分に貢献できなかった分を児童福祉の面から子どもの育成に力を注いでいきたいと考えています。皆様に感謝いたします。



わが教育人生に「夕陽人」あり

平馬 隆司

(昭和五十三年卒)

この度、函館市立学校教職員表彰受賞の榮譽を賜り、身に余る光栄と感謝申し上げます。この受賞は私にとりまして、忘れられない縁で結ばれた数え切れない人たちからいただいた教えと励ましの一つ一つを改めて噛みしめ、その懐古の情と感謝の心を自らに刻み直す意味深い機会と言えるものです。そのお一人お一人に心からお礼を申し上げます。そして三十八年間の教育人生の節目を迎えた私に「次なる自分はどう在るべきか」その行く手を求めるよう、新たな道標をいただいたものと受け止めています。

さて、時まさに新横綱の誕生に沸く大相撲ですが、その昔、名横綱だった大鵬の話です。夏巡業で北海道の実家に立ち寄ったことがありました。玄関に横綱姿の大きな写真が飾ってありました。大鵬はすぐに注文をつけたと言います。「相撲は一人だとれない。飾るなら相戸関と一緒に・・・」

かつて、慣れ親しんだ函館の地を離れ、教育の伝統や風土のまるで違う土地で生きることになったとき、戸惑いと苦みの中で独り相撲に明け暮れる私に、明日への光を見出す術を与えてくれたのが「土地の夕陽の人々」でした。集うことで絆を生み、語り合うことで踏み出す勇気を紡ぐ「夕陽人」のプライドを知るに至り、けっして多くない「同窓」が心強い「通じ合える人」へと、言いようのない深みを帯びていく感覚を味わいました。「夕陽人と共に在る喜びと感謝」の中に身を置くことができた幸せは、「夕陽」という温もりに溢れた響きとともに、今も私の心に強く刻み込まれているのです。

結びになりますが、夕陽会のご活躍をお祈り申し上げ、お礼の言葉と致します。



皆様に感謝して

八木 裕

(昭和五十三年卒)

この度、函館市立学校教職員表彰受賞の栄を得ました。これも諸先輩や同僚、後輩はもとより保護者や子どもたち、地域の皆様方のお力添えによるものであり、心よりお礼申し上げます。

私は、昭和五十三年三月、母校を卒業して、四月から児童数が千二百名を超える森町立森小学校に赴任いたしました。夕陽会の先輩をはじめ、各先生方から、新米教師である私にガリ版鉄筆の入れ方から、オルガンの指使い、マットや鉄棒運動の指導法など、懇切丁寧に教えていただきました。

昭和六十年、函館市へお世話になり、巴小学校、北星小学校、北美原小学校と勤務いたしました。各学校では、先生方が子どもへの深い愛情を持ち、授業を中心とした研究に取り組むなど、教育に寄せる熱い情熱を感じました。また一方、仕事を終えてからの職員体育、プライベートなお付き合いなど、懐かしい思い出が脳裏に甦ってきます。

その後、教育行政に十年間携わり、学校とはまた違った角度から教育を見つめ直させてもいただきました。こうした経験が、管理職としての学校経営推進の原動力となったことは言うまでもありません。

管理職時代の八年間、その時々々の教頭先生をはじめ、職員の皆様と共に、子どもたちの健やかな成長を願い、切磋琢磨しながら汗を流してまいりました。

そのような意味で、この受賞をいただいたことは、これまでお世話になりました皆様に感謝することを忘れなようにとの事であると受け止めています。

現在、退職から一年が過ぎようとしています。今後どのようにに函館市の教育に恩返しできるのか、自分なりに考えて努力してまいりたいと思います。

最後になりましたが、夕陽会の益々のご発展と会員皆様のご多幸を祈念し、感謝の言葉とさせていただきます。



受賞者の皆様

函館市コミュニティプラザへ キッチン用具一式を寄贈

〈地域貢献事業〉

平成二十二年度の函館奉行所開設時に車椅子を寄贈して以来、毎年継続している地域貢献事業。今年度は平成二十九年四月二十二日オープン予定の函館市コミュニティプラザ(愛称・Gスクエア)へ昨年度に続きキッチン用品一式を寄贈した。

函館市コミュニティプラザは、次代の函館を担う若者が豊かな発想に基づいた自由な発想・企画を具現化する空間として本町地区に整備される新しい施設である。多くの市民、特に若者が気軽に立ち寄り、広く交流できる施設づくりをコンセプトに、種々のプログラムを企画・検討・実行することができる可変性の高い場を提供することで、未来のまちづくりの拠点となることを目的としている。可動式空間仕切り、演出照明器具、映像機器、防音性能などを備え、音楽、演劇、パフォーマンス等のイベントや、講演会、展示発表会などの多様なニーズに即した多目的ホールと、誰もが気軽に立ち寄ることのできるフリースペースが整備される予定である。有料となるが貸切で利用することもでき、すでに予約が開始されている。

贈呈式は、二月十六日に函館市役所で行われ、風間支部長から担当の谷口論経 支部長へ目録が手渡された。谷口支部長からは、「オープンに向け準備を進めており、若者を中心に市民に利用してもらえる施設。大切に使用させていただく」と感謝の言葉をいただいた。支部では、新しい時代を切り拓く人材養成をつづける母校への恩返しとして、今後も、地域貢献事業を継続していく所存である。



平成28年度 夕陽会函館市支部受賞祝賀会ならびに会員懇親会 平成29年2月17日(金) 於フォーポイントバイシエラトン函館



ご祝辞 副市長 中林 重雄 様



受賞者代表 ご挨拶 安島 進 様



寮歌合唱



ご祝辞 渡島教育局長 辻 俊行 様



祝杯 教育長 山本 真也 様



乾杯 夕陽会会長 藤川 隆 様



風間支部長



若き夕陽会員 (教職員)



若き夕陽会員 (市役所)



力強いエール



記念品贈呈

学校・職場紹介

函館市立柏野小学校



本校は、昭和二年十月、函館市立柏野尋常小学校として建設許可され、昭和三年四月に開校しました。昭和九年に制定された本校の校歌は、初代校長である大山虎松校長が作詞しています。

一 歴史に著(しる)き 五稜郭

松吹く風も 音ゆかし
美(うま)しながめの 学園に
睦(むつ)ぶ我らが 楽しさよ
二 校章(しるし)の 柏 繁ること
たわまず剛(つよ)く 健やかに
磨きあげなん 我が心
鍛えあげなん 我が腕(かいな)

児童の逞しい成長への願いが、強風に耐えて茂る柏の木に託されているのが、本校の校歌です。また、校章には、中央に五稜郭、その周りには知・徳・体を意味する三枚の柏の葉が描かれています。本校の教育目標は、『豊かな柏野の子ど

も』考える子「がんばる子」「やさしい子」「健康な子」です。頭文字をとり「かがやけ柏つ子」が合言葉です。また、重点教育目標を「思いやりの心をもち共に学び 高め合う子」と設定しています。これらの達成を図るため、学校経営方針の中で八つの重点を示した「柏野スタンダード」や、本校の教育課程「柏野小プラン」、学力向上に向けた取組「かしの学びプラン」等の下、全教職員が協力して教育活動を推進しています。また、読書週間や中学校区で連携した家庭学習強化週間に年に数回設定しています。

他に、年に二回「なわとび強化月間」を設定し、体力作りに取り組んでいます。全学年が一週間ずつ「あいさつ運動」の担当となり、朝玄関に立ち、全校のみなど挨拶をかわす取組も行っています。今年度の六年生を含めると、卒業生は一五八六四名になります。来年度は創立九十周年を迎えます。九月一日(金)に記念式典と祝賀会、そして、毎年実施している地域公開授業参観を行います。

■会員紹介

- 校長 戸澤 和彦(昭和五十四年卒)
- 教頭 島 修一(昭和六十二年卒)
- 教諭 高津 知子(昭和五十三年卒)
- 田中 泉(昭和五十九年卒)
- 村田 嘉子(平成二年卒)
- 小又 洋子(平成六年卒)
- 小林 朋子(平成九年卒)
- 木代 堅巳(平成十年卒)
- 吉田 麻夕子(平成十一年卒)
- 村田 智美(平成十三年卒)
- 成澤 恵里(平成十九年卒)
- 橘 雄基(平成二十六年卒)
- 八重樫 大輔(平成二十七年卒)

函館市立的中学校



本校は函館市の中央部に位置し、昭和十一年十二月に函館市立的中学校尋常高等小学校として完成した校舎を活用し、昭和二十二年の新学制施行とともに函館市立的中学校として開校しました。昭和三十年代には全校生徒数が二千を超えたり、昭和四十年代後半まで各学年十学級を上回った時代もあり、卒業生総数は二万六千名を超えます。四校の小学校の通学区と重なり、古くからの住宅地と知られ、校区内には公立と私立を合わせ五つの高等学校と五稜郭支援学校があります。さらに、多くのスポーツや文化両面の施設

に近く、恵まれた教育環境にあります。教育的な関心の高い保護者が多く、学校行事やPTA活動に非常に協力的で、学校に対する学力向上への期待も大きいです。PTA主催の学習サポートや、講師を招いてのPTA研修「おしゃべりの場」は本校の伝統となっています。子どもたちは、教職員の指導の下、礼儀正しく、また進学実現への熱意も強い

生徒が大半です。校内生活では日常的にしっかりとした挨拶が交わされ、生徒会活動や学校行事、合唱活動等に情熱をもって取り組み、昨年十二月には十年越しで集めたリングプルを車いすと交換して市内の福祉施設へ寄贈するなど、活力ある学校生活が営まれています。縦割りを意識した体育大会や文化祭などの取組では、先輩から後輩への場の良き伝統を脈々と受け継いできました。

平成二十九年に開校七十周年の節目を迎える本校は、函館市内でも最も長い歴史を重ねてきている中学校の一つです。平成三十年四月より函館市の学校再編計画に基づき、近隣中学校と統合し、校舎も新築して新設校「巴中学校」として新たなスタートを切ることになりました。新築に伴う一部解体・改修で若干縮小された現存校舎で、教職員一丸となつて、本校の良き伝統を継承しつつ、統合に向けて鋭意準備を進めているところです。

■会員紹介

- 教頭 仲井 靖典(昭和六十一年卒)
- 教諭 油谷 栄次(昭和六十三年卒)
- 教諭 嶋田 歩(平成元年卒)
- 主幹 小田桐 智(平成三年卒)
- 教諭 内木 竜(平成四年卒)
- 教諭 森脇 あすか(平成六年卒)
- 教諭 澤田 康子(平成八年卒)
- 教諭 鈴木 亮(平成八年卒)
- 教諭 三河 正志(平成八年卒)
- 教諭 伊藤 大育(平成十一年卒)
- 教諭 櫻井 純(平成十一年卒)
- 教諭 菊地 功(平成十三年卒)
- 教諭 伊藤 佳史(平成十三年卒)
- 教諭 岡川 篤(平成十五年卒)
- 教諭 濱出 和隆(平成十九年卒)

訃報

- 三階 喬氏昭和24年卒平成28年2月14日(逝去)
澤田 稔氏昭和45年卒平成28年2月27日(逝去)
酒井 武美氏昭和32年卒平成28年3月20日(逝去)
岡崎 修三氏昭和33年卒平成28年5月23日(逝去)
原 顯彰氏昭和41年卒平成28年5月26日(逝去)
野村 拓氏昭和34年卒平成28年5月29日(逝去)
小梨 三男氏昭和36年卒平成28年7月11日(逝去)
中村 洋氏昭和25年卒平成28年7月12日(逝去)
下山幸一郎氏昭和22年卒平成28年7月16日(逝去)
小越 昭朗氏昭和23年卒平成28年9月4日(逝去)
名東 陽吉氏昭和22年卒平成28年9月18日(逝去)
村上 忠氏昭和31年卒平成28年10月20日(逝去)
白井 雄三氏昭和27年卒平成28年10月26日(逝去)
藤原 孝一氏昭和25年卒平成28年10月29日(逝去)
大坂 昭雄氏昭和22年卒平成28年10月30日(逝去)
吉田 恵悦氏昭和39年卒平成28年11月22日(逝去)
高井由美子氏昭和33年卒平成28年12月2日(逝去)
青木 誠治氏昭和25年卒平成28年12月14日(逝去)
永谷 潤一氏昭和29年卒平成29年1月14日(逝去)
永倉 好明氏昭和26年卒平成29年1月15日(逝去)
辻 信哉氏昭和32年卒平成29年1月28日(逝去)
山本 禎晁氏昭和31年卒平成29年1月28日(逝去)

函館市支部前納会員(五十音順)

- 菊池守晃氏(昭和53年卒)
切明学氏(昭和53年卒)
黒田仁志氏(昭和54年卒)
高橋登氏(昭和53年卒)
土谷敬氏(昭和54年卒)
平馬隆司氏(昭和53年卒)
八木裕氏(昭和53年卒)
柳田智子氏(昭和53年卒)

夕陽会函館市支部 会務報告

平成28年

夕陽会函館市支部事務局

- 4月
○総会会場予約
○新年度会員名簿作成
○事務局会議
9日(土)支部総会
18日(月)函館市支部幹事会および新会員、転入会員、幹事懇親会案内
5月
○函館市支部管理職名簿作成
○支部会報発行計画
○支部別会員名簿提出
○函館市支部新会員、転入会員、幹事懇親会(ホテル法華クラブ)
12日(木)本部総会・大懇親会案内
14日(土)夕陽会渡島支部大懇親会・新会員歓迎会へ風間支部長参加
6月
○会費徴収
○本部総会・懇親会推進業務(本部との打合せしおり作成等)
○事務局会議
10日(金)第3回本部役員会 顧問・参与会に支部長・幹事長出席
25日(土)夕陽会全国支部長会議・夕陽会総会に支部長・幹事長出席
7月
○事務局会議
○支部会報発行計画
○支部会報発行計画
○管理職採用・昇任者に寄付依頼
21日(木)支部会報発行計画
8月
○支部会報発行計画
○道通に暑中見舞広告を掲載(二三支部)
20日(土)鶴陵会渡島支部懇親会に風

9月

- 問支部長出席
○事務局会議
○管理職採用・昇任者に寄付集金
20日(火)第1回本部役員会に支部長出席
21日(水)支部会報90号発行、本部会報219号移送
29日(木)夕陽会創立100周年記念行事・事業 第1回実行委員会に宇佐美副支部長出席

10月

- 事務局会議
○慶弔業務
11月
○祝賀会・会員懇親会運営計画
○受賞者への祝意
○道通に教育の日広告を掲載(二三支部)
○事務局会議
○受賞祝賀会計画
12月
○祝賀会・会員懇親会案内状発送(受賞者、来賓、市役所、五稜支会、特別支援学校支会、会員、民間)
○本部会報220号移送

平成29年

- 1月
○事務局会議
○受賞祝賀会準備
○道通に年賀広告を掲載(二三支部)
2月
○顧問会議案内状発送
○事務局会議
○支部会報発行計画
○支部顧問会議
9日(木)支部役員会
10日(金)夕陽会創立100周年記念行事・事業 第2回実行委員会に支部長・副支部長出席
11日(土)夕陽会渡島支部勇退者激励感謝の会に支部長出席
16日(木)地域貢献 函館市コミュニティプラザへキッチン器具寄贈
17日(金)支部受賞祝賀会・会員懇親会
3月
○新年度会員名簿作成依頼
○栄進者への祝意

- 会計監査
○退職会員の前納会員移行案内
○総会(4/8)の準備
17日(金)支部会報91号発行、本部会報221号移送

【平成二十九年 予告】

函館市支部総会

日 時 四月八日(土) 午前十時

会場 市民会館大会議室

①学校幹事は必ず出席してください。(都合の悪い場合は代理出席も可)

②学校幹事の他に以下の会員数の出席を加えて報告してください。
③会員数九名以下の学校は、幹事の名以上
④会員数十名以上の学校は、幹事の名に二名以上

夕陽会本部総会・大懇親会

期 日 六月十七日(土)

会場 函館ロイヤルホテル

本部総会 午後四時〇〇分
大懇親会 午後五時三十分

事務局だより

支部会報第九十一号をお届けいたします。本会報の発行に際し、ご多用な時期にもかかわらず、快く原稿をお寄せいただき誠にありがとうございます。紙面をお借りして、心より感謝申し上げます。
前納会員制度のご案内を、三月でご退職される会員の皆様差し上げております。便利なこの制度のご利用をお勧めいたします。
(夕陽会函館市支部幹事長 佐藤 雅博)